

## 上手渡道改修記念碑



道路改修記念碑

上手渡線沿い、小志貴神社から北へ百メートル程の右手に二基の石碑が建っています。左の大きい碑が「佐藤直君の頌徳碑」（一四四ページ）で、その右手の少し高く建てられているのが「上手渡道路改修記念碑」です。

碑面には、里道二等線福島県伊達郡小手村大字上

手渡道路改修工事明治卅九年四月三十日県税補助申請、今年六月一日許可、今年七月十六日起工、今年九月廿六日竣工、明治卅九年九月建立、と刻まれ、下に県知事有田義資、郡長馬場直人、村長斎藤市之助ほか工事関係者の名も彫られています。

明治三十八年は、天明三年（一七八三）以来の凶作で、七月から霖雨つづきで、開花期に雨のために登熟せず……という状態で、福島市の平野では十アール当たり八合（二・二キログラム）しか収穫できなかったといえます。まして、山間地域の当町にあってはその悲惨さは平野以上と考えられます。かくて、農民の窮状を救済するために、県の補助事業による道路改修工事が行なわれ、小手地区では、糠田から下手渡と、上手渡から下手渡への二道路の工事が行なわれたのです。記念碑のかげに、農民の血の滲むような苦勞のあったことを記憶すべきでしょう。（凶作の資料は福島市史4より）